

第15回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 議事録

日時：平成25年2月8日(金) 14:00～16:10
場所：三木市役所 5階大会議室 出席者：別紙のとおり

開 会

(1) 第14回協議会議事録の確認

- ・第14回協議会の議事概要について議事録の確認がなされた。

(2) 報告事項

① 平成24年度（～8月）神戸電鉄粟生線の輸送人員実績について

- ・神戸電鉄・三津澤委員より、資料－2報告。
- ・24年度4～12月の対前年比は、定期外－2.5%、定期＋1.1%（通勤－2.6%、通学＋0.7%）、合計－1.5%となっている。通勤では2～3%の減少傾向が続き、通学は高校一時移転の影響が一巡した8月以降に大幅減となっている。通学の傾向はしばらく続くため、本年度の粟生線輸送人員は672万人から、さらに668万人程度に減少する見込みである。
- ・神戸電鉄より、資料－2（補足①）に基づき、来年度以降の利用促進計画の検討にあたっての現状等について報告。
- ・高校移転や割引切符などの単価の低い利用者の増加もあり、収入増加にはあまりつながっていない。また、通勤定期利用者の減少が構造的に続いており、対策を講じていく必要がある。
- ・本年度の1日当たり駅別乗降人員によると、2,000人未満の小規模駅のほとんどが粟生線で、中でも木幡、栄、緑が丘等での減少が大きい。
- ・次期連携計画の目標達成は、通勤 Come Back 補助制度とサポーターズクラブ会員による利用増加如何にかかっているが、今後、目標未達により粟生線の減収が大きくなれば、利用者数の少ない駅・サービス施設の見直しや、利用実態に見合ったダイヤ効率化などの費用削減を行わざるを得なくなる。特に、更新時期が近づく駅トイレについては、自治体への市民トイレ化の要請（志染、押部谷、栄、木幡）や時機を見ての廃止検討（葉多）が必要となっている。このような厳しい状況にあることを前提に利用促進を議論いただきたい。
- ・神戸電鉄より、資料－2（補足②）に基づき、サポーターズクラブ入会促進、通勤 Come Back 補助の活用、連携計画（案）パブリック・コメントへの意見提出への行動を呼び掛ける新聞広告の実施概要について報告。

② 平成 24 年度における協議会の取り組み状況について

- ・事務局より、資料-3 報告。
- ・「シニアパス」は、3 か月単位の発売期間で 1,000 枚を超える順調な発売実績を上げており、来年度には岡場駅でも発売を開始する予定。
- ・「粟生線～三宮 平日昼間&土休日お得きっぷ」は、残念ながら採算ラインとする 1,200 セット/月まで利用が増えず、このままでは継続が厳しい状況にある。
- ・「粟生線サポーターズくらぶ」については、前回協議会での指摘も踏まえ、受付箇所の拡大（三木市公民館や神戸電鉄主要駅など）や、クチコミ拡大のため地域自治会や学校、企業への訪問説明等を実施。
- ・入会者数は 2,777 人（1/9 現在）で、まだ 5,000 人の目標の半分強に止まっており、まだまだ沿線地域住民の方の入会が進んでいないため（680 人：世帯数の約 1%）、引き続き入会促進に努める。
- ・くらぶ会員による主体的な活動につなげていくためのミニ集会として、「サポーターズくらぶの集い」を開催する。
- ・その他の取り組みについて資料を基に報告。

○座長より以下のコメントがあった。

- ・「サポーターズくらぶ」については、重要な施策として位置付けられているが、協議会での意見も反映されているということであり、さらに良い方向に進めてもらいたい。
- ・会員メリットが少ないという意見もあったが、まず先に皆で「支える」ということが「くらぶ」の主旨であり、会員特典は、さらに利用するためのものとして理解を求めていくべきである。

(3) 議事

■ 議案 1 号 粟生線通勤 Come Back 補助制度の実施について

- ・事務局から議案-1 について、補助金交付要綱に基づく制度概要の説明があり、文言や表現について意見があれば、14 日までに事務局に連絡をいただきたいとの報告があった。

○座長より以下の質問があった。

- ・定期買替えが集中する 3～4 月の前に効果的に告知を行うため、施行が 2 月 8 日となっていると思うが、本日からスタートということではどうか。
⇒ 議案承認されれば、本日から開始する。（事務局）
- ・勤務先の理解や協力がなく浸透しにくいと思われるが、そのような告知の対応は考えているか。
⇒ 承認されれば、各自治体担当者が沿線企業を回って、制度の主旨やメリット

の説明と協力要請を行いたいと考えている。加えて、自治体広報誌や新聞広告でも広く告知を行う予定である。(事務局)

- ・このような制度は他地域でも導入事例はあるのか。
⇒ 支援額や方法は様々だが、名古屋鉄道（広見線）や北近畿タンゴ鉄道でも同様の制度を実施しており、それを参考にした。ただし、実際の利用者はなかなか増えていないようで、今回の制度導入においても積極的に協力を呼びかけねばならないと考えているが、連携計画の目標達成のため300人の制度利用者を目指していきたい。(事務局)

○委員より以下の質問・意見があった。

- ・転入者は対象となるのか。また、通勤者は、運賃よりも時間を重視しているので、簡単に利用者は望めないのではないか。
⇒ 基本的に電車以外の通勤手段からの転換を狙いとしているが、転入者については、運用上確認が困難な面もあり対象となる。また、制度の主旨は、粟生線を残すために協力しようと思っていただける方に対して、少しでもご協力いただきやすい環境を提供しようというもので、協議会として最大限可能な補助の方法として、運賃面での支援を実施している。(事務局)
- ・他の手段からの転換を促す方法として主旨はよいと思うが、競合路線がない中で利用者を見込むのは難しいのではないか。
⇒ 自動車やバイク、バス等の電車以外の移動手段からの転換は対象となる。主に車からの転換を働きかけていきたい。(事務局)
- ・補助は勤務先にしか入らず個人に還元されないので、企業ぐるみの取り組みとして対応してもらえたら別だが、そうでなければ、個人から見れば効果は望みにくいのではないか。個人が、勤務先からは所定の通勤手当を得たうえで、半額の補助を得ることは法的、税務的な問題はないのか。公務員は対象とならないのではないか。
⇒ 勤務先の了解があれば個人にも補助金交付できる制度としている。ただし、個人申請の場合は勤務先の証明を条件としているので、必ず勤務先のチェックが入る。企業に対しては、できるだけ個人還元への協力を訴えかけて効果を高めていきたい。また、個人への補助金給付の有無に関わらず、勤務先では通常どおり非課税の通勤手当として問題無いことを税務当局に確認している。なお、公務員は法的に個人還元できず対象外となる。(事務局)

○座長より、定期の買い替え時期に合わせて、できるだけ早く実施して効果を上げたいという状況もあるので、大きい方向としては本要綱の内容で進めていくこととし、そのなかで改善等のご意見があれば反映していくということで、承認をいただきたいとのコメントがあり、本議案は承認された。

■ 協議事項 神戸電鉄粟生線地域公共交通総合連携計画（案）
（平成 25～28 年度）

○事務局より以下の報告があった。

- ・ 協議事項の資料に基づく計画（案）の報告。
- ・ 本日審議いただいた内容のほか、詳細資料をご覧になったうえでご意見があれば 2 月 25 日までに事務局へご連絡いただきたい。2 月 18 日～3 月 19 日の間、本計画（案）についてパブリック・コメントを実施するが、そこでのご意見とも合わせて、その内容を踏まえた最終案を次回協議会に諮りたい。

○委員・オブザーバーより以下の質問・意見が出された。

- ・ 方針 7 「駅を中心としたまちづくりの推進」に記載されている事業は、内容的には自治体を実施する事業のように思うが、これは協議会が実施するのか。
⇒ 協議会を構成する沿線自治体が、市が実施する都市政策について粟生線沿線で集中的に取り組んでいこうということと思う。（座長）
- ・ 方針 7 で、まちづくりについていろいろ記載されているが、一つでも具体的に実施していくものはあるのか。志染駅では駅で南北地域が分断されているので、特に高齢者にとっては双方間の移動がしにくい。
⇒ 南北の行き来をよくするためには、まちづくりの要素も入れて考えないと鉄道事業者としては難しい。（神戸電鉄）
⇒ 大きな課題と認識しているが、駅南側は個人所有地になっているほか、立体化等には多額の費用を要することから、現状では具体的な計画は無い。何か方法がないか時間をいただいて検討したい。（三木市）
⇒ 大がかりな施設整備だけでなく、行き来しなくてもチケット購入できるとか、少しでも利用しやすくできることを検討してもらえればと思う。（座長）
- ・ サポーターズクラブ入会促進のため、地域自治会や学校等に働きかけを行っており、一定の理解は進んでいると思われるが、なかなか入会まで至らないことが多い。まずは、状況や趣旨をよく知ってもらうことが大事だと思うので、いろいろできることを考えていきたい。
- ・ 「サポーターズクラブの集い」が 2 月 23 日に自由が丘（三木市）で開催されるが、地域に協力を呼び掛けるうえでも、協議会メンバーはできるだけ出席していただきたい。
- ・ 粟生線通勤 Come Back 制度は、他地域でもあまり成果が出ていないように、個人還元されるとしても長く続くのか疑問である。
- ・ 収支が厳しい中で投資が難しいとのことだが、利用してもらうには、ある程度の投資を伴っても利用しやすいサービスの改善がないと難しいのではないかと思

われる。

- ・利用者を増やすには、利用者に魅力を感じてもらえるような駅美化・駅施設整備や接客サービスの向上が必要である。
- ・サポーターズくらぶ特典のフリーチケットも、リピート会員になるには魅力が無い。

○座長より以下のコメントがあった。

- ・700万人台を目標とするとのことだが、具体的にどの施策でどれだけ増やしていくのかを具体化するとともに、1年経って、目標達成できたか、何がうまくいって、何がうまくいかなかったか、その成果を確認し、常にフィードバックしてその後の改善につなげる、PDCAサイクルの仕組みを考えることが大事である。
- ・計画期間のゴールとなる4年後の展望として、地域の人たち自身が支えあい、自主的に持続可能な栗生線とするための枠組みを作っていくことが必要である。

(4) その他

○近畿運輸局より以下の報告があった。

- ・平成25年度の政府予算における鉄道支援関連予算について、既存の地域公共交通確保維持改善事業の内容を一部拡充し、地域協働による、地域ぐるみの利用促進に資する取り組みについて、補助を拡大する方向なので、予算が成立すれば活用を図っていただきたい。
- ・次回の協議会は、3月29日（金）10時30分～12時30分 三木市役所（5階大会議室）にて開催することを確認した。

閉 会

以上

第15回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属・役職	出欠
藤枝 篤志	神戸市企画調整局 企画調整部 調整課 公共交通調整担当課長	代理 出席
北井 信一郎	三木市 副市長	
小林 清豪	小野市 副市長	
三津澤 修	神戸電鉄株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長	
武川 潔	押部谷町連合自治協議会会長	
中野 美都子	押部谷町連合自治協議会副会長	
蓬莱 道龍	元 三木地区区長協議会会長	欠席
安福 恵子	前 三木市区長協議会連合会会長	
田中 歳彦	元 小野市連合区長会会長	
多鹿 豊	小野市商店街理事	
土井 勉	京都大学大学院 工学研究科 特定教授	

○オブザーバー

氏名	所属・役職	出欠
加納 陽之助	国土交通省 近畿運輸局 企画観光部 交通企画課長	
山本 勝	国土交通省 近畿運輸局 鉄道部 計画課長	
市村 徹也	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課 鉄道係長	代理 出席
小玉 浩嗣	兵庫県 神戸県民局 交流連携参事	
神崎 敏道	兵庫県 北播磨県民局 まちむら交流参事	
竹本 真也	神戸市西区 まちづくり推進部 まちづくり課長	